

# 『一般社団法人関西産業活性化協議会』設立趣意書

我が国は、21世紀に入り人口減少や高齢化により経済成長も減少傾向にあります。更に、世界における政治的、経済的地位は低下しており、我が国の行く末を如何に変えてゆくかは大きな課題です。

加えて、平成19年の米国のサブプライムローン問題に端を発し平成20年9月にはリーマンブラザーズが倒産、世界手的な金融恐慌へと連鎖、経済は大幅に低下し、100年に一度の不況と言われるまでになりました。現時点において、大企業では底を脱したと報じられていますが、中小企業ではその兆候は見え、今回の不況が何年に及ぶかもまだ分からない状況です。

一方、経済活動においては、その大きな比率を占める中小企業430万社（全企業数の99.7%）、従業員2800万人（全従業員の71.0%）の動向が社会において大きな影響をもたらすことは言うまでもありません。

このような状況において、我国の成長期を支えてきた私達「新現役」が、今後どのように考え、如何に生きてゆくかは重要な問題と考えます。少なくとも社会における負荷となるのではなく、何らかの貢献をし、プラスに寄与することが求められております。

そこで経済活動を支援する団体が、広域で、協働して中小企業の優れた技術や商品の発掘、それに対する支援をすることは、我国の活力を高めるのに有効であると考えます。この活動は、中小企業だけに留まらず、中堅・大企業を含めた企業との連携や大学・官公庁との協働、或いは海外との連携など、幅広く行うことも大切であることは言うまでもありません。

私達は、近畿経済産業局と（社）関西ニュービジネス協議会が共同で進めてこられた中小企業の優れた商品の販売支援を行う「販路マッチングナビゲート事業」のナビゲーターの団体であり、本事業の終了後も協議し検討を進めて参りました。

その結果、相互に横連携することにより、販路開拓のみならず、広くマッチング支援をより効果的に行う意義があると考え、近畿2府5県の地域の産業支援団体から成る組織「一般社団法人関西産業活性化協議会」、英文名 Kansai Industry Activation Council、略称K I A C（キアック）を設立することといたしました。

私達の活動が地域の産業を活性化し、優れた技術や商品を発信し、事業を拡大し、企業の発展に寄与することを通じて、豊かな国民生活と我国の発展に貢献することを願っています。

2010年9月27日（設立総会開催日）

設立発起人

大槻眞一、神吉正弥、高田弘、富永安治、長井俊彦、  
成田欽史郎、野田浩志、山崎健一郎、吉田丹治